

筒袖陣羽織

このような衣服は、天候から身を守るために鎧の上に着られた。この陣羽織はヨーロッパから輸入されたフェルトウールで作られている。江戸時代(1603-1867)に作られた陣羽織は、16世紀に日本に伝わったヨーロッパ製のものを参考にしているが、日本製は袖がなく、ベストのような形をしていることが多い。徳川 14 代将軍家茂 (1846-1866) の肖像画には、これに似た服装のものがある。

上着の襟には 5 つの赤い徳川家紋があり、上着の前身頃には金の紋章がある。紋章には、野生のショウガの一種である葵の 3 枚の葉が描かれている。陣羽織の背面の紋章は、旧字体で書かれた「葵」である。

裏地はなく、縫い目は荒く、不均一であることから、未完成品であるか、戦闘のためにすぐに必要であったため、迅速に作られたことがわかる。